

公開授業名： 日本語研修コース1（留学生向けコース）
授業担当教員： 教育開発系 柴崎 秀子 教授
開講日時・場所： 平成20年12月2日（火）1限、日本語演習室

授業について

授業目標：①丁寧形（敬体）と普通形（常体）の違いの認識

②丁寧形から普通形への形態の変換

③聞き取り

④言語使用が可能になることを目的とする。

授業は、ピクチャーカードを使用した形容詞の復習から始まった。留学生は柴崎先生のテンポの良いカード提示に従って、取り組んでいく。ピクチャーカードは、対義語が一つのカードにおさまっていて、効果的に既習の形容詞を復習できる教材として工夫されていた。学生が答えられない場合には、柴崎先生から、彼らの既習の単語を用いたヒントが与えられた。

本授業の最大の特徴は、ダイレクトメソッド（直接法）である。「日本語を全く知らない人に、日本語だけを使用して授業を行う」ことを目的とする。また、ダイレクトメソッドのもう一つの特徴は、「構造シラバス（文型積み上げ式）で構成されている」点である。このときに使用する日本語は、学習者がこれまで勉強した語彙と文法であり、これによって未知の学習項目を教える授業方法である。柴崎先生の話す日本語は、上記の目的に沿ったクラスルームジャパニーズであった。学習者の聞く力、話す力に訴え実践力を日頃から育成することを目的とした教育技法であった。

次に学習内容に関して説明を行う。日本語教育では敬体を先に教えるそうである。これは日常会話で「——です」、「——ます」が使えれば、コミュニケーション上の衝突が起りにくいからだそうだ。次なる授業展開において、丁寧形と普通形の違いを認識し、丁寧形から普通形への形体を変更する学習を行った。これはテキストと配布資料を用いて行われた。回答は板書で行われた。柴崎先生の板書は、学習者が理解可能なひらがなやカタカナだけの文字で構成されていた。その際、違いを理解すること、それを音読する作業も必ず取り入れられていた。

全体的に、留学生は教員によく質問をするなど、熱心な学習態度であった。50分を経過した後、『となりのトトロ』を見て、ディクテーションの課題に取り組んだ。柴崎先生の、「何パーセント理解できましたか」という問いかけに対し、「50%わかりました」という返答が聞こえた。3度目の視聴を終えて、柴崎先生はまた同じ質問を繰り返した。「何パーセント理解できましたか」という問いかけに対し、「80%わかりました」という返答があり、柴崎先生は、すぐに「80%、すばらしい！」と学生を褒めた。柴崎先生は、終始笑顔を絶やさず、親身な態度で学生指導にあたっておられたことが印象的であった。日本語学習の現場を拝見することは、日本文化がどのように外国人に理解されているかを知る貴重な機会である。本学に在籍する留学生の日本語学習の授業公開は、留学生の意欲と目的を知るだけでなく、留学生に対するFD向上に貢献するものであった。

報告書作成者：教育開発系 高橋綾子